

平成14年度採択分

平成19年 3月31日現在

研究課題名(和文)

コンピュータ・ネットワークを用いた法学教育の実践・評価システムの創成

研究課題名(英文)

Professional Legal Education under the Environment of Computer Networks:
Development of A Disinterested & Participatory Review System
of Professional Skills Training

研究代表者

松浦 好治 (MATSURA YOSHIHARU)

名古屋大学・大学院法学研究科・教授



研究の概要:

ネットワークを利用して、法学理論教育と実務技能教育の統合環境を構築すること。そのため、理論教育のために投票による評価システムを、実務技能教育のために映像記録システム、記録映像分析・共有システムを開発した。

研究分野/科研費の分科・細目/キーワード:

法学教育/学術創成研究/法学教育/コンピュータ/IT/ロースクール/実務技能/同輩評価/シラバスシステム

1. 研究開始当初の背景

法学理論教育においては、講義という一方向的情報伝達が主流で、学生の能動的学習環境が貧弱であった。実務技能教育は、大学ではまったく行われていなかった。

法学部卒業生のほとんどが法律家にならない時代はそれで事足りたが、法科大学院の発足に伴い、教育の質的向上が強く求められるようになった。

2. 研究の目的

専門家養成用の高度な学習環境を開発すること。そのために、理論教育においては、学生全員が能動的に授業に参加し、その成果を公平に判定できるツールを、実務技能教育においては、尋問等の実習を行っている学生のパフォーマンスを記録・分析し、その結果をもとに指導をおこなったり教材を作成・共有したりするためのツール開発すること。

3. 研究の方法

理論教育においては、学生全員が毎回法的文書を書いて、それを相互に評価するシステムを開発した。

実務技能教育においては、その困難さは、実務技能の多面性、記述困難性にあるとの認識から、法廷場面を多角的にかつ忠実に記録するシステムを開発し、さらに、その分析を

効率的に行うためにインターネット上で記録映像を共有し、その映像にコメントを加えることのできるシステムを開発した。

そして、両システムともに、実際の授業で運用しながら改良を加えていった。

4. 研究の主な成果

法学教育を行う統合環境の土台となる NLS シラバスシステムを開発した。これは、シラバスの電子化とネットワークを通じた利用を基本とし、さらに教材配布、提出機能、掲示板機能などを持たせたものである。

法学理論教育のツールとしては、APRS(Anonymous Peer Review System)を開発した(最終的に上記 NLS シラバスシステムの中に統合された)。これは、学生が提出したレポートを匿名で提出したレポートに、学生が投票して優れたものを選ぶことによって順位を付けることを可能にするツールである。優れたレポートを書いたかどうかだけではなく、優れたレポートに投票したかも判定できる。つまり、レポートを書く能力と読む能力の両方が評価されることになる。また、学生は、投票するために、他の学生が書いたレポートを必然的に読むことになる(模範答案を示すだけでは読まない学生が少なくない)。これは、自分と違う考え方に触れ、学ぶ機会になり、学生の能力向上に役立っている

〔 4 . 研究の主な成果 (続き) 〕

る。また、学生の相互評価を利用することにより、教員がレポートの評価をする負担を軽減することができる。もちろん、授業の中で教員が一定の方向付けをすることができるし、レポートに対してコメントを付けることもできる。

実務技能教育のためには、次の二つのシステムを開発した。

1 法廷実技の収録のためのシステム、DRS (Digital Recording Studio) を開発した。このシステムは法廷に 4 個のカメラを設置し、裁判官、原告、被告、証人の映像を独立にとらえ、再生時には音声追尾形式で、話者の映像を負うことができるほか、話者以外のパフォーマンスも任意に画像を切り替え表示することが可能なシステムである。また、このシステムでは、録画時に人の場所にインデックスを付すことが可能になっており、模擬裁判のパフォーマンスが終わった直後に、必要な箇所を再生し、適切な指導をなすことが可能となっている。

2 映像分析システム (Streaming Indexing and Commenting System) を開発した。このシステムは、DRS 等で撮影した映像をインターネット上で共有し、オンデマンドで映像を提供するほか、視聴中の映像の任意の箇所に文字でのコメントが書き込める形になっており、単に映像を共有するだけではなく、その映像の持つ意義等も文字情報として共有することが可能となっている。また、コメントの付された場所は、そのままインデックスとしても機能し、コメント付された場面から視聴するなど、分析の効率化にも視するシステムとなっている。

5 . 得られた成果の世界・日本における位置づけとインパクト

ネットワークを利用した法学教育統合環境は、法学教育先進国のアメリカでもなかったものであり、全米法廷技術研修所 (NITA) をはじめ、多くの機関、国から視察を受けた。

日本においては、NLS シラバスシステムを採用したいという大学がいくつもある。また、STICS を利用した教材開発には、14 法科大学院の協力体制ができており、さらに拡大の方向である。

6 . 主な発表論文

(研究代表者は太字、研究分担者には下線)

角田篤泰、養老真一、松浦好治、「NLS シラバスシステム: コース管理プラットフォームと

その投票サブシステムの利用、情報処理学会研究報告書 (第 3 回 CMS 研究会)、33-38、2006
金子大輔、菅原郁夫、今井早苗、半谷幸裕「法科大学院における実務技能教育を支援するシステム導入の試み」、教育システム情報学会誌、2004.7、Vol.21、No.3.

藤田哲・菅原郁夫「民事模擬裁判授業」NBL762号、41-49 頁、2003 年

松浦好治・菅原郁夫「名古屋大学臨床法学教育のシミュレーション方法とその課題」宮川成雄編著『法科大学院と臨床法学研究』、成文堂、187-196 頁、2003 年

菅原郁夫「IT 教育 その功罪も含めて」法律時報、76 巻 5 号、38-44 頁、2004 年

松浦好治「「法情報調査」科目の設計案」『NBL』761 号 30 頁、2003 年

松浦好治「法科大学院に自発的参加環境を提供する」日弁連法務研究財団編『法科大学院における教育方法』、商事法務、59-79 頁、2003 年

松浦好治「KEY WORD リーガル・リサーチ」『法学教室』280 号、2-3 頁、2004 年

加賀山茂「法教育改革としての法創造教育 - 創設される法科大学院における法教育方法論 - 』名古屋大学法政論集』201 号 691-744 頁、2004 年

金子大輔、菅原郁夫、実務技能教育を支援するシステムが法科大学院の授業において果たす役割の検討、教育システム情報学会第 30 回全国大会講演論文集、293-294、2005

ホームページ等

<http://pleweb.nomolog.nagoya-u.ac.jp:18080/web/Templates/index.html>